

兵庫教育大学広報誌

<http://www.hyogo-u.ac.jp>

教育子午線

Kyoiku-Shigosen
June, 2010
vol.23



◎キャンパス通信
◎うれしの交差点

◎研究レポート

大嶋浩 不純物混和の文化史研究



◎教育最前線

児童生徒の暴力行為に どう向き合うか



学校の適正規模

この4月から兵庫教育大学長に就任した加治佐哲也です。どうぞよろしくお願いします。

専門は学校経営・教育行政です。最近の学校経営・教育行政にはいくつもの課題がありますが、特に多くの自治体にとって喫緊の課題となっているのが学校規模の適正化です。一部の地域を除けば、少子化によって児童生徒の数が減少し、小学校、中学校の規模が小さくなってきているのです。私はいくつかの市で審議会などの委員長としてこの課題に取り組んできました。児童生徒の教育・学習活動は学級を単位として行われますので、学校の規模は学級の大きさと数をもとに設定されることとなります。学級の規模は、国の法定標準は40人ですが、多くの府県は主に小学校低学年について、それを下回る

35人や30人を編制基準と定めています。保護者や教職員を対象にした意識調査では20〜30人がよいとする意見が多く、学級規模と教育効果との関係を調べた研究もおおむねこの範囲が適正としています。文部科学省では現在、国の法定標準の見直しを検討しており、40人を下回る人数が設定される可能性があります。

学級の適正規模を25人と仮定した場合、小学校の規模には次のようないくつかのレベルを設けることができます。

- ① 複式学級をつくらない規模（全学年が単式学級である規模）：50人程度以上
- ② 全学年に適正規模の学級を確保する規模：150人程度
- ③ 全学年に複数の学級を確保する規模：246人以上

④ 全学年に複数の適正規模の学級を確保する規模：300人程度

学校教育は集団活動が基本です。その点からは④③②①の順で教育効果の高いことは明らかです。では、すぐに④あるいはそれに近い規模にすべきかという点、またできるかという点、そうは単純ではありません。

学校の規模を大きくするには複数の学校を統合することになります。そうすると通学区域が広くなり、通学時間の長くなる子どもが出てきます。意識調査では、徒歩やスクールバスなどによる通学時間はおおよそ30分が限度と保護者の多くは考えています。

学校は歴史的に、地域づくりの核としての、また地域住民を統合するシンボルとしての役割を果たしています。地域の子どもは地域

で育てるべきと考えている人々もたくさんいます。特に小学校についてはそうしたことがいえます。

保護者子どもは就学する学校を選べるべきと考えている人々があり、実際にその仕組みを取り入れている自治体があります。そうならば学校の児童生徒数をあらかじめ算定することが難しくなりまので、学校選択制を導入するか否かの判断が必要です。

教育効果とこれらの要素を勘案してそれぞれの自治体や地域に適したレベルの学校規模を設定し、学校を配置する必要があると思います。その際、単に複数校を一つの敷地に統合するだけではなく、さまざまな工夫がなされるべきです。たとえば、一つの学校に統合はするが、「地域の学校」を残すために、それまでの学校の敷地・施設はで

きるだけ活用する、小規模校のグループをつくり、体育や音楽、国語、社会や総合学習の時間などにおいて、スクールバスを使って頻繁に一つの学校に集まって授業や行事を行う、などです。

また、一定の適正規模をもとに学校を新しく編成・配置した自治体では、小・中連携（一貫）教育や「小小連携教育」、学校と広くなった地域（通学区）との一層の交流の推進など、新しい学校規模や立地地域に適した教育計画と教育方法を創意工夫することが求められます。そして、それを推進するためには教職員の意識改革と専門的な資質・力量の一層の向上が必要です。大事なことは、学校の適正規模化を子どもたちのための新しい教育づくりと教職員の力量向上の機会と考えることです。



↑公開シンポジウム(教職大学院の実習等のFDシステム共同開発)



↑兵庫教育大学と環太平洋大学との包括連携に関する協定書調印式



↑総合研究棟竣工式典

Campus Topics

2月

- 2日~4日 ◎附属中学校雪山体験学習
- 6日 ◎大学院説明会(神戸地区)
- 14日 ◎大学院連合学校教育学研究所入学者選抜試験
- 18日・19日 ◎附属幼稚園生活発表会
- 20日 ◎教職大学院の実習等のFDシステム共同開発~大学と教育委員会・学校の「互恵モデル」の構築~公開シンポジウム
- ◎加東市高齢者大学閉講式(加東市との共催)
- ◎附属小学校うれしのフェスティバル
- 25日・26日 ◎学部前期日程入学者選抜試験
- 27日 ◎学部私費外国人留学生特別選抜試験

3月

- 6日 ◎事業成果報告会
~兵庫教育大学教職大学院と学校現場とのコラボレーションによる高度専門職業人としての教員養成~
- 9日 ◎附属中学校卒業証書授与式
- 12日 ◎学部後期日程入学者選抜試験

4月

- 17日 ◎附属幼稚園修了証書授与式
- 18日 ◎附属小学校卒業証書授与式
- 23日 ◎大学院学校教育研究科学位記授与式
- ◎学部学位記授与式
- ◎大学院学校教育研究科(夜間クラス)学位記授与式
- 26日 ◎大学院連合学校教育学研究所学位記授与式
- ◎総合研究棟竣工式典
- ◎兵庫教育大学と環太平洋大学との包括連携に関する協定書調印式
- 6日 ◎大学院学校教育研究科入学式
- ◎学部入学式
- 9日 ◎附属小学校・中学校入学式
- 12日 ◎附属幼稚園入園式
- 13日 ◎大学院連合学校教育学研究所入学式
- 26日~28日 ◎附属中学校3年生修学旅行

5月

- 15日~7月10日 ◎ひょうご講座「文学空間と地理空間-文学的観光への試み」(全9回)
- 15日~6月26日・9月4日~10月16日 ◎公開講座「楽しくてうまくなるテニス教室」(全14回)
- 22日 ◎大学院説明会(神戸地区)
- 29日 ◎大学院説明会(京都地区)

目次 Contents

16 14 12 11 10 09 08 06 04

- 16 教育最前線
- 14 児童生徒の暴力行為にどう向き合うか
- 12 暴力行為を予防するために学級でできること
- 11 研究レポート
- 10 不純物混和の文化史研究
- 09 大嶋浩(社会言語教育学系教授)
- 08 私たちの先生
- 06 淀澤勝治准教授(基礎教育学系)
- 04 同窓生からの手紙
- キャンパス通信
- うれしの交差点
- 「NANAつくす活動室」を訪問! 不登校の子どもたちに対する円滑なサポート体制づくりを兵庫教育大学からのお知らせ

◎表紙



「うちとそと」

小林優香さん作(学校教育学部芸術系コース4年)
2010年 162cm×130cm
油彩・キャンパス

ここ数年、児童生徒による深刻な暴力事件や殺傷事件が相次ぎ、社会問題となっています。その底流として、少なからぬ中学校、高校で暴力行為や器物損壊が断続的に発生し、教師がその対応に苦慮しているという状況が見られます。実際、平成20(2008)年度は小・中・高校の暴力行為の総発生件数が過去ワーストを記録しました。

あら い はじめ
新井 肇
臨床・健康教育学系教授



文部科学省では、生徒指導施策推進の参考とするため、毎年度、児童生徒の問題行動に関する調査を実施しています。そのなかの暴力行為についての調査結果を見ると、平成20(2008)年度に国・公・私立の小・中・高校の児童生徒が起こした件数は、小学校6484件(前年度比1270件増)、中学校4万2754件(同5951件増)、高校1万380件(同359件減)の合計5万9618件(同6862件増)で、3年連続で増加し、全体としては調査開始以来最悪の数字を示しました「グラフ」。高校では発生件数がやや減少した一方で、暴力行為が発生した学校の割合は上昇しています。

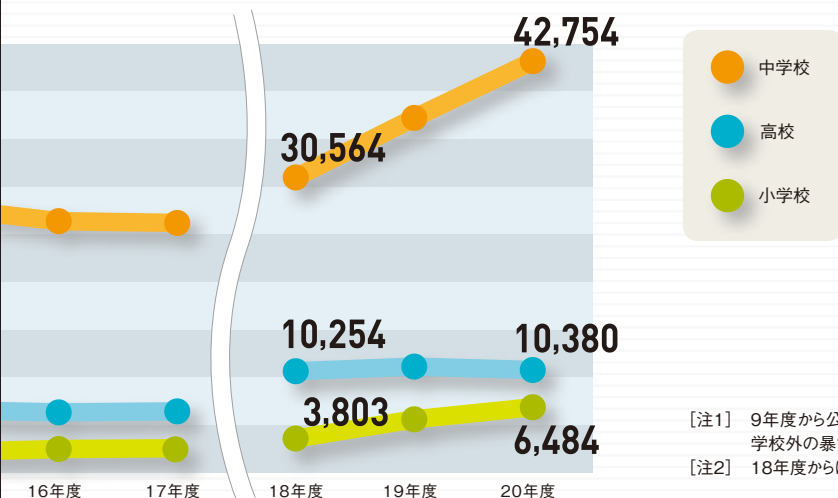
ここでいう暴力行為とは、「故意に有形力(目に見える物理的な力)を加える行為」を指し、対象によって「対教師暴力」(8120件)、「生徒間暴力」(3万2445件)、「器物損

件数は年々増え続け過去ワーストに

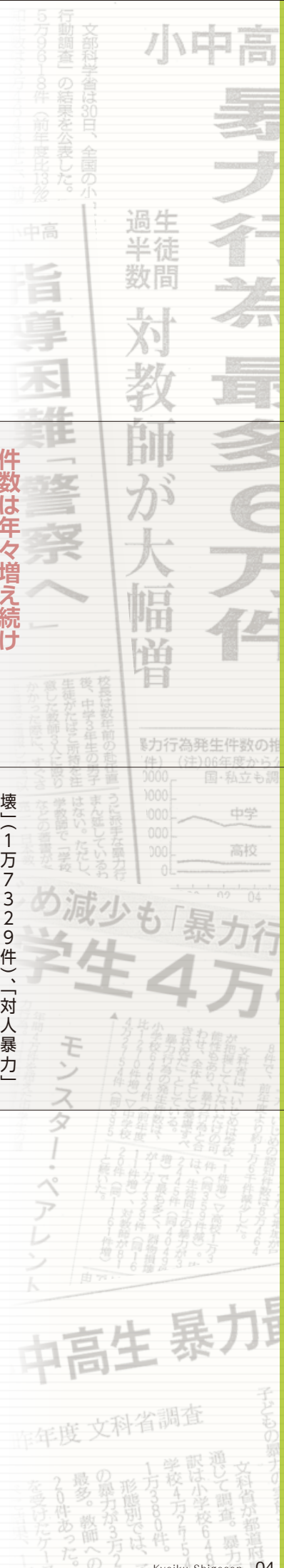
壊」(1万7329件)、「対人暴力」(1724件)の4形態に分類されます。加害児童生徒数は6万1353人(前年度比4929人増)で、学別にみると、中学2年生の1万6313人が最も多く、次いで中学3年生の1万5159人となっています。性別では男子が9割強を占めています。

暴力行為の質的变化には社会環境も影響

現在の児童生徒の暴力行為は、校内暴力の嵐が吹き荒れ、第3の非行のピークといわれた1980年代とは質的に異なる何かを感じさせます。目立つ変化として、非行傾向のある子どもといわゆる普通の子どもの境界が見えにくくなったことがあげられます。表面上はおとなしく素直に見え、学業成績も悪くない児童生徒が、教師からすると何の前触れもなく突然キレて反抗的になったり、授業妨害をしたり、時には暴力行為にまで及ぶといったケースが



[注1] 9年度から公立小・中・高校を対象として、学校外の暴力行為について調査
[注2] 18年度からは国・私立学校も調査



児童生徒の 暴力行為に どう向き合うか

少なくありません。暴力行為が、一見する限り普通と見える不特定層にまで広がったと言えるのではないのでしょうか。

その背景には、規範意識やモラルの低下、ストレス耐性の弱化、対人関係能力の低下など児童生徒の問題と並んで、急激な情報化による直接体験の不足や不況下での先行き不透明な閉塞感の増大など、社会全体の環境変化による影響も大きく作用しているように感じられます。

学校、家庭、地域が連携し 早急に防止策の具体化を

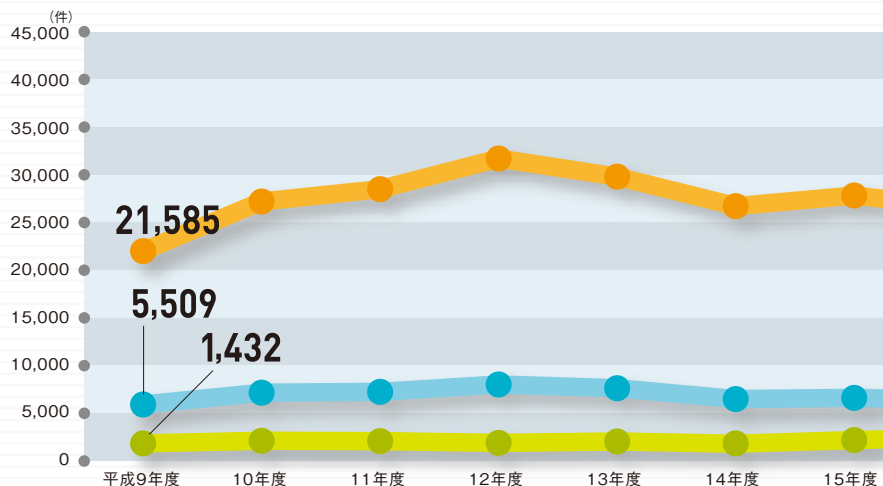
暴力行為は、被害者はもちろん、家族や友人など周囲の多くを傷つけ不安に陥れるものです。学校、家庭、地域など生活の場を共有する人々の安心・安全を脅かし、人間関係を不信に満ちた脅威へと転化させてしまいます。加害者もその家族を含めて傷つき、人生を根底から揺るがされる危機を招くものです。

しかし、学校における指導・対処

が、暴力行為発生後の加害・被害児童生徒を対象とする限定的・対症療法的なものにとどまり、積極的な予防策は講じられていないというのが実情です。暴力行為の指導においては、教師と児童生徒、教師と保護者の信頼的な人間関係を培っていくことが基本です。そのためには話し合いの時間や多様な活動の場を共有することが欠かせません。その土台の上に、時間をかけて保護者や地域社会との連携を築きながら、アンガーマネジメント・プログラムやソーシャルスキル・トレーニングなどの暴力行為の防止に向けた開発的・予防的な取り組みを具体化することが、これからの生徒指導の重要課題の一つと考えられます。

- ①アンガーマネジメントプログラム：望ましい人間関係を構築するため、「怒り」の感情とうまく付き合いながら、それを自分でコントロールできるようにすることをめざす取り組みのこと。
- ②ソーシャルスキルトレーニング：他者と良好な人間関係を形成・維持するのに必要な具体的な知識や技術を身に付けるための練習のこと。

【グラフ】学校内外を合計した暴力行為発生件数の推移



普通の子突然暴力 教育現場、対策模索

調査 規範意識低下などで

た奈良県。県教委の担当者は「予測がつかない暴力行為が増えている。『目立つ子』だけを指導していればいい状況ではなく、なつた」と話す。

小中高暴力

前年度比七・二倍、49ト 最多5.9万件

08年度3年で1.75倍

暴力防止に向けた開発的・予防的な取り組みの必要性が指摘されています。
 そこで、ここでは、学校における種々の教育活動の基盤が
 学級にあることをふまえ、学級を運営する教師が、
 暴力行為を予防するために考慮すべきポイントについて、
 集団や人間関係そして感情をめぐる心理学の研究に基づきながら論じます。



やま なか かず ひで
山中一英
 基礎教育学系准教授

感情のコントロール

暴力行為が増加した背景に、感情をコントロールできない児童生徒の増加がある、という指摘とともに、学校では、暴力行為の予防に向けて、児童生徒が自らの感情をコントロールできるようになることを目的とした取り組みが始められています。こうした取り組みが実践されるとき、まずもって吟味されなければならない問いがあります。それは、感情をコントロールするとはどういうことか、という問いです。感情をコントロールするとは、(たとえば、ネガティブな)感情を経験しないということでしょうか。あるいは、感情の表出をとにかく抑え込むということなのでしょうか。

私たちの生活にとって、感情(の経験と表出)がどのような意味や役割を有しているのか、考えてみましょう。悲しみという感情を例にとつて説明すると、この感情を経験したとき、それを他者に適切に表出することで、私たちは他者から同情や援助という行動を引き出しています。また、経験した私的な感情などを他者に適度に打ち明けることが、関係を親密にする働きをしていることが知られています。つまるところ、

他者との関係のなかで生きる私たちにとって、感情(の経験と表出)は、なくてはならない心理過程なのです。これらをよりどころに先の問いに答えるなら、私たちに求められる「感情のコントロール」(の構成要素の一つ)とは、「他者とかかわりあうなかで、さまざまな感情を経験し、それを適切にまたは適度に表出できること」ではないでしょうか。

教室という場

児童生徒は、(基本的に)教室という空間で、同じ他者と、1年間にわたって、かかわっていかなければならないりません。それゆえ、ネガティブな出来事に巻き込まれたり、嫌な思いをしたりすることは、きっと少なくないでしょう。そんなとき、教室でなければ、しばらくかかわらないでおくこともできるでしょうが、教室だとそうはいきません。しかも、教室では、(たとえば、小学校の学級などで「みんな仲良く」といった学級目標が存在するように)ネガティブな感情を望ましくないものとみなす力が働いてい(る場合があります)ます。このような教室にあって、感情をコントロールすること(とりわけ、ネガティブな感情を表出すること)は、



暴力行為を 予防するために 学級でできること

そんなに簡単なことではないのかも
しれません。

学級のなかでの 感情のコントロール

ここまでの論考を基礎にしたとき、教師は、どのような働きかけを、どのように行うことが求められるのでしょうか。

まず、働きかけの具体として、多様な実践を案出できるでしょうが、(蓄積された心理学の知をいかすなら)アンガーマネジメント・プログラムやソーシャルスキル・トレーニングなどは有益な示唆を与えてくれるでしょう。ただし、その効果をいっそう高めるためには、そこでの教育的営為が相互に影響する学級ゆえに、それを授業や学級活動などの諸活動とつなげていく試みが求められるでしょう(そうすることで、それが学級目標と関連づけられることとなります)。

そして、働きかけは、感情を表出する側だけでなく、感情を受け取る側へも向けられなければならないでしょう。なぜなら、それぞれの児童生徒が感情を表出する側にも受け取る側にもなり得ますし、人間関係は感情の表出と受け取りのやりとりを

繰り返して続けられるものだからです。たとえば、感情を受け取る側に焦点をあてたとき、感情を受け取ったものが、学級のなかでとるべき行動の規範は曖昧です。すなわち、(それが誰に対してのものなのか)に依存しますが、(受容するのかもしれないのか)あるいは許すのか許さないのか、さらには具体的にどのような行動すればよいのか(受容するとしたら、どのような行動をすることが受容することになるのか、など)といったことは、はっきりしていません。したがって、感情の表出と受け取りの両面において必要とされる行動を、教師と児童生徒がともに、1年を通して、(学級目標など学級で大切にされるべき価値と照合しながら)考え、実践することが求められているといえるでしょう。

ここで言及したことは、暴力行為を予防するために学級でできることの、ほんの一部でしかありません。ただ、このような実践は、学級だからこそできることであり、学級のなかでそれが積み重ねられたとき、暴力行為の予防に寄与するだけでなく、児童生徒の良好な人間関係の形成や社会性の育成につながると期待されます。



このページでは日本学術振興会の科学研究費補助金を受けた研究を紹介します。科学研究費補助金とは、すべての分野の「学術研究」を格段に発展させることを目的に、独自の・先駆的な研究に対して助成を行うものです。基礎研究、挑戦的萌芽研究、若手研究などに分かれており、挑戦的萌芽研究は1人または複数の研究者による独創的な発想に基づき、挑戦的で高い目標を掲げた芽生え期の研究が対象。研究期間は1〜3年です。

研究レポート



おおしまひろし
大嶋浩
社会・言語教育学系教授

Report of Research



↑「パンチ」(1858年11月20日号)の漫画「偉大なる菱形ドロップ製造人」。同年10月末に発生したブラッドフォード中毒事件(誤ってヒ素が混入された菱形ドロップを食べた20人が死亡、200人以上が命の重大な危機に瀕した事件)を風刺したものの

不純物混和の文化史研究

(平成20〜22年度科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究に採択)

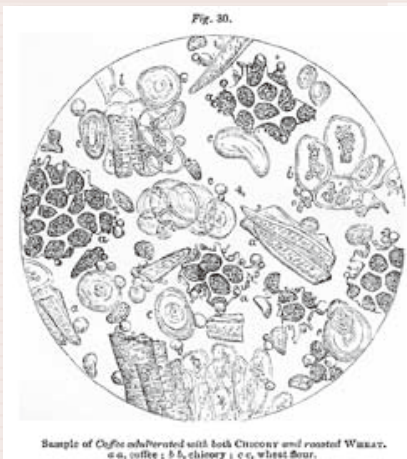
現

在、食品の不純物混和は日本でも大きな関心と呼んでいますが、歴史的にみて、西洋、特に英国では人口が急増し、都市化が急速に進んだ19世紀から、この問題が大きな社会的関心事となりました。

そもそも不純物混和は、基本的には生産者と消費者が一致した自給自足の農村生活には見られず、生産者と消費者が分離している都市生活で起こる現象です。西洋で不純物混和

に対する最初の言及が見出されるのは、古代ギリシア・ローマの都市国家であるといわれています。ワインの風味や色づけのために有害物質を加えたり、ひき割りムギを白くするために白亜(チヨーク)を混入したりと、さまざまな不純物混和がすすで行われていたことが知られています。

英国の場合、ノルマン人の征服(1066年)以後の数世紀のうちに、商人や職人の数が次第に増えて都市



↑ハッサルの「検出された不純物混和」第2版(1861年)に掲載されている顕微鏡分析の図「チヨリと炒(い)った小麦が混ぜられたコーヒーのサンプル」。aがコーヒー、bがチヨリ、cが小麦粉を示す

で死者さえ出るありさまで、医学専門誌『ランセット』や風刺週刊誌『パンチ』がキャンペーンを展開しました。それに呼応する形で政府も実態調査に乗りだし、

1860年に「不純食品取締法」が制定されます。その後、改訂・制定されて取り締まりが強化され、20世紀初頭にはひどい

生活が確立し、チヨイサーやラングランド、ルネサンス期のシェイクスピアなどの作品中に不純物混和への言及が見出されるようになりますが、広範に行われることはありませんでした。

しかし、18世紀後期から産業革命などの影響で都市化が進むにつれて、不純食品の横行への非難が高まりをみせるようになります。19世紀に入ると化学者のアークムや医学博士のハッサルらが食品を分析。それらの結果は不純物混和の驚愕すべき蔓延を科学的に証明するものであり、英国では不純物混和が大きな社会問題となりました。

当時は有害な着色剤による中毒

食品取締法」が制定されます。その後、改訂・制定されて取り締まりが強化され、20世紀初頭にはひどい不純物混和はなくなり、この問題も一応の終息をみることになるのです。私は、19世紀の英国の小説でさりげなく言及されているミルクやピクルス、菓子類などの不純物混和について詳しく知りたいと思ったのが、この問題に興味を抱ききっかけでした。目下、18・19世紀を中心にさまざまな文献を渉猟しながら英国の不純物混和の問題を文化史的に明らかにする作業に取り組んでいるところです。将来的には、時代と国を広げて、さらに大きな視野でこの問題を研究したいと思っています。



くまもと
隈元みちる
臨床・健康教育学系准教授

教育時事 一問一答

子育てにおいて「ほめる」ことで
子どもの心境はどう変化し、
どのような効果があるのでしょうか。

「ほめる」とは、相手に向かって「あなたを見ているよ」「あなたってすごいね」「あなたがいて、私もうれしいよ」などのメッセージを伝えることです。

子どもはほめられると、その事柄について自信が持てます。もっとやってみようという気になるかもしれません。そして何よりも大事なことは、自分自身を肯定してもらえたように思うことです。「ほめる」ことは、生きていく根本となる「私はここにいていいんだ」という感

情を育てることにつながるのです。この感情は、その子が周囲の中でより生きやすくなっていくことにつながっていくでしょう。「ほめる」ことは子どもの社会適応力を高める効果があるという研究結果が、先日、新聞などでも報道されていました。

ほめられてうれしいのは子どもだけではなく、大人同士も「あなたが大事だよ」というメッセージを、「ほめる」ことを通して伝えていけるといいですね。

Question & Answer

兵庫教育大学附属小学校では4年間にわたって、「『学ぶこと』と『教えること』の共鳴」を研究テーマに掲げ、子どもの主体的な学びと教員の積極的な教えとの調和・総合による「真の学び」を生み出す教育実践に取り組んできました。その成果は年度ごとに3冊の書として出版してきました。本書は、その総括とすべく、「かかわりが生み出す『真の学び』」と題して、最終年度の研究・実践をまとめたものです。「真の学び」をつくる授業とはどのようなものなのか。日常の各教科や英語学習などの授業実践(16事例)を紹介し、新しい授業像に迫ります。(八木眞由美副校長)



かかわりが生み出す『真の学び』

著:兵庫教育大学附属小学校教育研究会 明治図書・平成22(2010)年刊

教員の 著書紹介



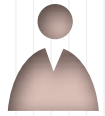
本書は、小・中学校の教員をめざす学生のための社会科教育法のテキストとして編纂しました。社会科教育のカリキュラム、授業構成、学習指導、評価の理論と実践について、具体的事例を踏まえて解説しています。また、社会科教育学研究を志す大学院生のためのハンドブックとして活用されることも想定し、学界の最先端(フロンティア)の知見も紹介しています。しかし、本当のねらいは、社会科こそ人生というフロンティアに立ち向かう知恵をはぐむ場であるという強い思いにあります。読者の皆さんが本書を通してそのことを実感していただければ幸いです。(原田)

社会科教育のフロンティア

—生きぬく知恵を育む—

保育出版社・平成22(2010)年刊 編著:原田智仁(社会・言語教育学系教授)

Books



よどざわかつじ
淀澤勝治 准教授
基礎教育学系

大阪府出身。明石市立小学校と兵庫教育大学附属小学校に、それぞれ10年間勤務する。平成14(2002)年、兵庫教育大学大学院修士課程生徒指導コースに入学。19(2007)年に大学院の准教授に就任。専門は道徳教育学。たつの市在住。

淀

澤先生を一言で表せば「来る者は拒まず、去る者は追わず」。真剣に学びたい学生には熱心に教えてくださいます。先生は道徳教育が専門ですが、生活科や幼児教育にも精通されています。もともと公立校や附属小学校に勤めておられたので、その経験を基に指導方法や子ども

フィールドワークを通して、教員としての教養と、美しいものを美しいと感じる素直な心の大切さを学びました。

ゼミの初回に「何を書いてもいい」と、ノートを1冊ずつ頂きました。ゼミ生たちは自然学校の補助員をした時の感想や、卒論についての考えなどを書いたり

懇切丁寧な指導に 学生の学ぶ意欲が高まります

もとのかわり方などについて指導して下さいます。

ゼミではフィールドワークによく出かけます。「なぜ、レングゲが畑にたくさん咲いているのか」「桜はどうして日本人に好まれるのか」など、今まで気にも留めていなかった質問を投げかけられます。続けて、「一日の初めにこんな話を子どもたちにできるといいね」の一言。子どもたちにとって身近な自然も教材の一つであり、それをどのように気づかせ、何を感じさせるのか。

しています。先生はそれらを丁寧に添削し、コメントを付けて返してくれます。私たちの悩みや不安にも真正面から答えてくださり、小学校教員ならではの几帳面さを感じます。

学部生に先生のイメージを尋ねると「恐そう」「厳しそう」などと返ってきます。他人に迷惑をかけるような行為に対してはとても厳しいですが、学ぼうとやって来る学生に対しては真摯に支援してくださり、学ぶ意欲をより高めてくれます。

↓ゼミは笑いが絶えないアットホームな雰囲気です



←ゼミ生か否かを問わず、どんな学生にも熱心に指導されます



こば
木場あゆみさん
学校教育学部
学校教育系コース4年

Our favorite Professor

先生から
学生たちへ

「教員としての資質とは」。附属小学校に勤務していたころ、よく学生から尋ねられました。私見ですがと前置きしたうえで、「深い意味で子どもが好きであるということ」と、向上心があること」と答えていました。

深い意味で子どもが好きなら、子どもが伸びていく姿を見ることは一番の喜びです。同時に、自分にはできていないことが多々あると自覚します。そこで向上心があれば教員としての能力を伸ばそうとするはず。この繰り返しでの延長線上に成長し続ける教員がいると考えるのです。

自分をさらに高めながら、子どもに愛される教員になってほしいと願って、ゼミ生を指導しています。

頑張れ！未来の先生。



同窓生からの 手紙

子どもたちと常に向き合う それがモットーです

小学校教員になって6年目。教育実習の時とは違い、教員として働くからこそ味わえる醍醐味があって、毎日、忙しいながらもやりがいを感じられて充実しています。子どもたちの感性に驚かされたり、頑張る姿に感慨深くなったりと、私の方が元気つけられることもしばしばです。

クラス担任になって思うことの一つに「この子たちの一生の中で、この一年は一度しかない。担任として精一杯やれるだけのことをしよう」という気持ちがあります。子どもたちは小学校生活を通して、大人になっていくための基盤を築いていきます。授業中も休み時間も放課後もその一瞬一瞬において、しっかりと子どもたちと向き合いながら、常に全力でかかわることが私のモットーです。私自身にとっても、かけがえのない一年であり、子どもたちと出会ったのは幸せなことだと実感しています。

経験はどんどん積み重ねられていきますが、いつまでも今の気持ちを忘れずに日々、精進しながら、これからも子どもたちの成長にかかわっていききたいと思います。



てらざわりえ
寺澤梨絵さん

姫路市立香呂小学校教諭

姫路市出身。平成17(2005)年3月、学校教育学部生活・健康系コースを卒業。伊丹市立緑丘小学校を経て、22(2010)年、姫路市立香呂小学校に着任。2年生を担当している。

↓個別指導では一人一人の成長ぶりがよく分かります



みうら いちろう
三浦一郎さん

姫路市立糸引小学校教諭

姫路市出身。平成17(2005)年に関西学院大学を卒業し、NPO法人岩美自然学校に勤務。19(2007)年、大学院小学校教員養成特別コース(現教職大学院同コース)に入学。今年3月に修了し、4月から姫路市立糸引小学校で4年生を担当。

↓授業中でも休み時間でも子どもたちに声をかけることを大切にしています



Letters From OB & OG

子どもたちの成長を 支え続けるために

教員になって1年目の今年度は4年生を担当しています。事あるごとに、子どもたちのことを任されているという責任を感じます。今はまだ仕事を覚え、一人前になるために必死の毎日ですが、職場の先輩方のサポートもあり、充実した教員生活を送っています。

大学院では授業力を身に付けることはもちろんのこと、実地研究では「現場ではどのようなことが起こっているのか、それら一つ一つに教員はどのように対応していったらいいのか」ということを学びました。実地研究で学んだことを大学に持ち帰り、仲間の経験と照らし合わせて議論したり、教員の指導を受けながら理論的に整理したりと、今考えるととても貴重で貴重な時間を過ごせました。

教員になって一番強く感じたことは、子どもたちは伸びたがっている、成長したがっているということです。私たち教員は子どもたちの成長を支え続けるためにどうすればいいのか。この課題解決にも、大学院で学んだことが大いに生きてくると思います。

▶ 同窓会・都道府県連携推進本部からのお知らせ

第30回大学院同窓会総会岡山大会

同窓会総会は毎年、各都道府県で持ち回りしており、同窓会創設30周年の今年は岡山県で開催します。功績のあった役員の表彰などを予定しています。

開催日 ▶▶▶ 7月24日(土)・25日(日) 会場 ▶▶▶ ビュアリティまきび(岡山市)

新コンテンツが人気の「Hyokyo-net」

教育現場と大学を結ぶ「Hyokyo-net」がリニューアルして、はや2カ月。大学教員や修了生が現場の悩みに答える「現場に役立つ教育問答」などの新コンテンツもアクセスを集めています。「同窓会交流広場」の利用のみログイン登録が必要です。

<http://www.hyokyo.net>

↓加東キャンパスで開かれた
連合大学院の入学式にて



つ い し げ き
筒井茂喜さん
明石市立
江井島小学校教諭

播磨町出身。昭和60(1985)年、滋賀大学教育学部体育コースを卒業し、翌年から明石市立小学校に勤務。平成20(2008)年に兵庫教育大学教職大学院授業実践リーダーコースに入学。今春、現場復帰とともに兵庫教育大学連合大学院(博士課程)に進む。



◀今年度は3年生を担当。江井島小学校では2クラス合同で体育授業をしています。「全生徒に目を配らないといけないので気を抜けません」



↓ゴールデンウィーク明けの授業ではブリッジや馬跳びをしました。「今は基礎体力を高める段階。教職大学院で研究した実技系の授業はまだ先ですね」



スポット
ライト

教職大学院で学んだことを生かして 毎日の実践をより充実させたい

教員はキャリアを重ねるにつれて、学級運営のほかにもいろいろな校務を任せられます。そのころは、学校全体の授業力の向上を率先して考える立場でした。筒井茂喜さんは教員になって23年目の平成20(2008)年、教職大学院に第1期生として入学。今春修了し、明石市立江井島小学校に現場復帰しました。

大学卒業時にも、大学院で体育授業の研究を続けることを考えたという筒井さん。若手時代から、明石市内の教員が集う研究会などに積極的に参加してきました。「仕事に課題はつきものですが、毎日が充実していましたし、今さら大学院に行こうとは考えもしませんでしたね」

しかし、兵庫教育大学に教職大学院が開設されることを知り、心境に変化が。「日本初の教員の専門職大学院というのが魅力的でしたし、授業実践リーダーコースの主な対象は私のような中堅教員です。大学院案内で授業内容を調べ、これなら自分の課題解決や追究したいものと合致

するのではないかと思いました」

研究テーマに選んだのは「ボール運動の授業づくり」。研究したいことがたくさんあって大いに迷った末、自らの専門分野に落ち着きました。

「学校全体の授業力を上げるためには、各教員がそれぞれの専門で良い授業方法を考え、それをほかの教員に提案すべきというのが持論です。だから、私の場合は体育授業をじっくり考えることが、現場への還元が一番つながると思ったのです」

教職大学院で学んだことを早く現場で試みたいと思う反面、もっとも旺盛な研究心にさらに火がつけました。そこで4月からは現場復帰とともに、連合大学院に進学。平日は校務をこなし、週末は大阪サテライト(キャンパス・イノベーションセンター大阪)まで授業に通っています。「大学院であらためて追究することの楽しさを実感しました。次のステップに進み、教員生活がより豊かになるのではと自分自身に期待しています」



いわし よしひろ
岩橋嘉大さん
学校教育学部
社会系コース4年

新たな発見のたびに
もっと読みたいと
意欲がわいてきます



↑自宅の本棚。入学以来、本が増え続けています

←社会系コースの学生控室（通称勉強部屋）でもよく本を読みます

これに
夢中！

大学に入学して以来、週に2、3冊の本を読んでいます。

読書が趣味になったのは、高校3年生の時に養老孟司のベストセラー「バカの壁」に出合ってからです。この本によって読書の面白さを知り、大学ではジャンルを問わず、たくさんの本を読むと決めていました。

読書は学問の奥深さを教えてくれたり、日常生活では味わえない感動や気付きを与えてくれたりします。何冊読んでも、自分はまだまだ何も知らないのだと思い知らされ、もっといろいろな本を読みたいという意欲がわいてきます。

社会系コースでは、仲間と議論する機会が多く、本で学んだ考え方が役立つこともあります。これからも読書を通して、さまざまな価値観にふれることで、人間としても成長していきたいと思っています。

お気に入り
スポット

いじゅういん せいじ
伊集院誠次さん
学校教育学部
学校教育系コース3年



↑唐揚げ定食は800円。コーヒーも付きます

やしろ北京

ジャスコ社店の近く、国道372号沿いにある中華料理店。サッカー部の練習の後は必ずと言っていいほど通っています。定食の種類が多く、特にお勧めは唐揚げ定食。鶏肉が大きく、揚げたてでとてもおいしいです。どの料理もボリューム満点で、火曜と土曜にはご飯がお代わりできるサービスもあります。部活後の空腹が満たされ大満足です。座敷で仲間と団らんできるのも楽しみの一つです。



ちん いくりゅう
陳昱龍さん(中国)
大学院修士課程
生活・健康・総合内容系コース2年

日本の伝統的なスポーツに興味があり、特に柔道について詳しく知りたいと思い、3年前に留学することを決意しました。大学院に入学してからは、先生方や友達に支えていただき、身ももっているいろいろな体験ができました。皆さんのおかげで日本のスポーツ文化が学べて、有意義な留学生生活を過ごしています。大学院で得たものは私の人生の宝物となります。修了後は中国に帰り、両国の体育交流を深めるために頑張りたいと思います。



↑ドラゴンボート部に所属し大会にも出ています(中央のサングラス姿が筆者)

留 学 生
リ
レ
メ
ッ
セ
ー
ジ

④



うれしの交差点

～兵庫教育大学と地域の交流ページ

「NANAつくす
活動室」
を訪問!

平成17(2005)年度に始まった
学生参加による不登校支援ネットワーク
「NANAつくす」。
年々、学生の派遣を要請する
不登校支援施設が増えるなど、
その活動は充実期に入ってきました。

↓活動室の掲示板には不登校支援
施設からの募集の張り紙が並びます



↑適応指導教室に通い始めて2カ月。「子どもたちも気兼ねなく話し
かけてくれるようになりました」と丸毛さん

不登校の子どもたちに対する 円滑なサポート体制づくりを



←常に学生たちでにぎわうNANAつくす活動室。渡辺さん(右列手前から3人目)も交えて、各人が近況を話します

兵庫教育大学の学生参加による不登校支援 ネットワーク「NANAつくす」が始まって

今年で6年目を迎えました。この取り組みは、学生が依頼のあった不登校支援施設(団体)や適応指導教室などでボランティアスタッフとして活動し、不登校の子どものかかわりから学んだことや支援施設の活動内容を学内外に広く発表。それによって、支援施設同士、支援施設と大学の連携を図ろうというものです。

「それぞれの支援施設で理念や方針は異なりますが、NANAつくすを介して互いの活動内容を知ることができると話すのは、支援施設と学生の間立つ、チーフコーディネーターの渡辺進さん。「派遣先を選ぶ際は、学生の学びたいことやスケジュールに合うかどうかを考慮します」と続けます。

支援施設や教育委員会の関係者らを招いて年2回開催する「ネットワーク会議」は、学生の活動発表や意見交換会などを通して、出席者たちが交流を深める絶好の機会です。加東市の適応指導教室に向いている前田美幸さん(言語系コース4年)は昨年の会議で発表しました。「支援施設や親の会などの人たちは私たち学生に対し、活動を手伝ってくれる存在として、非常に好意を持ってくださっていると感じました」と振り返ります。

加東キャンパスの「NANAつくす活動室」には、支援施設などから学生を派遣してほしいという依頼が年々増えています。参加登録している学生は約500人(大学院生を含む)に上るものの、実際に活動しているのはその2割程度だとか。「授業やクラブ活動で忙しく、参加したくてもできない学生が多いのです」と渡辺さんは話します。

活動室は常時、学生たちが出入りしています。掲

教職員の研修会や 生涯学習の場に 大学教員が出張講座します

スクール・パートナーシップ事業

小・中・高校などの教育現場や教職員の研修会をはじめ、自主的な研究グループ、学習サークルといった地域の生涯学習の場に大学教員を派遣します。「教員の資質向上」「教育の質的向上」「地域内教育の活性化」「児童・生徒等の学習意欲の向上」を4本柱に多彩な講座を用意。社会の動向とともに変化する教育現場の要望や、高度化・多様化する生涯学習のニーズに応えます。

◎派遣依頼の方法

①講座テーマを一覧にしたパンフレットを請求(大学ホームページ<http://www.hyogo-u.ac.jp>にも一覧を掲載)②希望講座が見つければ担当教員に直接連絡を取り、日程や講座内容などを打ち合わせる③大学に「派遣依頼書」を送付する



◎事業利用料

1回2万円。別途、派遣先までの往復の交通費(宿泊費が必要な場合もあり)。ただし、兵庫教育大学大学院と連携協力校の協定を結んでいる学校からの依頼は事業利用料を免除します。

◎パンフレットの請求と問い合わせ

兵庫教育大学地域交流推進センター
TEL 0795・44・2053
E office-renkei-r@hyogo-u.ac.jp

公開講座の受講生を募集

バラエティーに富んだラインナップで好評の「公開講座」。夏から秋にかけて開催する講座の受講生を募集しています。

和文化体験講座

一親子によるそばの栽培から手打ちまでの食文化体験—そばの栽培から手打ちまでを体験し、先人の知恵と食生活の重要性を学びます。

期間▶8月28日④、11月6日④・20日④の午前中

※天候によって変更の場合あり

場所▶加東キャンパス

対象▶3歳以上の子どもとその保護者

定員▶親子15組(30人)

受講料▶無料(別途材料費1組800円)

申込受付▶6月23日④~8月9日④(申し込みが6組以下の場合には開講しません)

ガムランはともだち

リズムの組み合わせが躍動的で面白い、ガムラン(インドネシアの民族音楽)を演習します。さまざまな楽器に触れ、簡単な楽曲の合奏をめざします。

期間▶8月28日~10月2日の毎週土曜(全6回) 13:00~16:00

場所▶加東キャンパス 対象▶一般

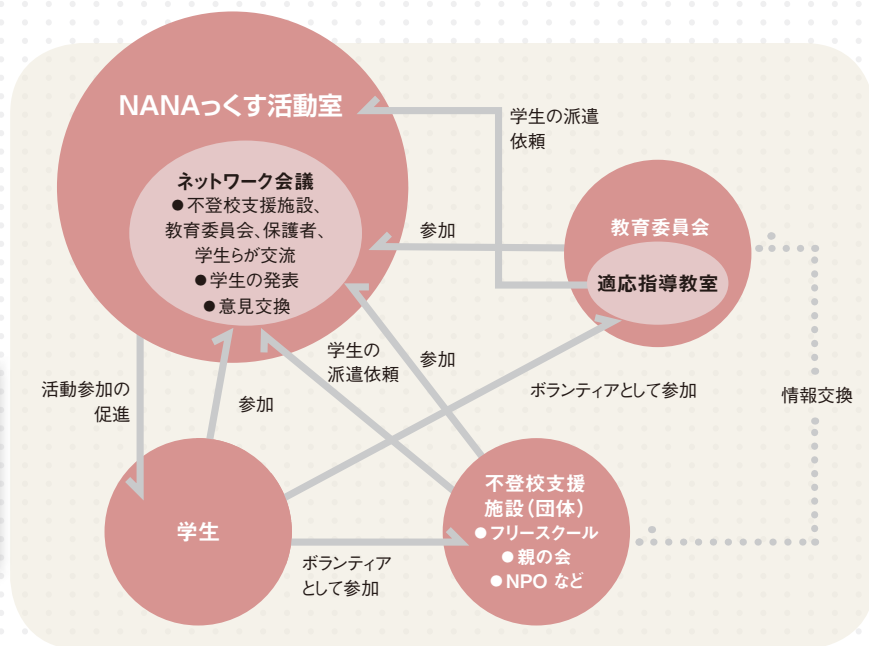
定員▶15人 受講料▶8,100円

申込受付▶6月23日④~8月9日④(申し込みが5人以下の場合には開講しません)

◎申し込み、問い合わせ

兵庫教育大学地域交流推進センター
TEL 0795・44・2053
E office-renkei-r@hyogo-u.ac.jp

◎NANAつくすの概念図



◀↑昨年9月に開催したネットワーク会議。前田さんは学生代表の一人として、活動で気づいたことや学んだことなどを発表しました

示板で施設からの募集内容を確認したり、互いの活動情報を交換したり。参加できない学生が体験者の話真剣に耳を傾ける光景も日常的。今年度から週1回、西脇市の適応指導教室に通い始めた丸毛幸太郎さん(幼年教育系コース4年)は「不登校の子どもたちとどう接したらいいのか不安でしたが、先輩からは特別なことはしなくてもいいと言われてました。実際、僕はそばにいて、彼らの居心地のいい雰囲気をつくり出しているかどうかに気をつけているぐらいですね」と話します。「子どもにとって学生は何でも話せるお兄さん、お姉さんのような存在です。今日は誰が来るのか楽しみにしています」と適応指導教室の指導員、川口美恵子さん。

不登校の児童生徒は全国で12万人以上。学生たちが将来、不登校の児童生徒を担任することもあるでしょう。学生たちはNANAつくすの活動を通して不登校の児童生徒への接し方を身に付けるとともに、学校現場にまだまだ十分に行き届いていない支援施設などの情報を伝える役目も期待されます。

◎平成23年度大学院学校教育研究科学生募集

23(2011)年度の入学生(修士課程200人、専門職学位課程100人)を前期と後期に分けて募集します。

修士課程

◎募集人員 前期158人 後期42人

▶学校教育学専攻	クラス	前期	後期
教育コミュニケーションコース	昼間	8人	2人
	夜間	若干人	若干人
幼年教育コース	昼間	8人	2人
	夜間	若干人	若干人
学校心理学コース	昼間	13人	2人
	夜間	—	5人
臨床心理学コース	昼間	25人	—
	夜間	—	15人
▶特別支援教育学専攻			
心身障害コース	昼間の	18人	2人
特別支援教育コーディネーターコース	昼間の	8人	2人
▶教科・領域教育学専攻			
言語系コース	昼間	18人	2人
	夜間	若干人	若干人
社会系コース	昼間	16人	4人
	夜間	若干人	若干人
自然系コース	昼間	13人	2人
	夜間	若干人	若干人
芸術系コース	昼間	15人	若干人
	夜間	若干人	若干人
生活・健康・総合内容系コース	昼間	16人	4人
	夜間	若干人	若干人

※昼間クラスは加東キャンパスで、夜間クラスは主に神戸サテライト(神戸市中央区)で開講します。
※言語系コースには国語分野と英語分野、自然系コースには数学分野と理科分野、芸術系コースには音楽分野と美術分野があります。

兵庫教育大学では、平成23(2011)年4月から大学院修士課程の教育研究組織の改革を行う予定で、現在、文部科学省の大学設置・学校法人審議会に申請を行っています。この改革は、新しい時代に対応し、従来の教育研究内容に加え、学校教育現場が必要としている総合的・複合的な分野・領域の教育研究を充実させることを主な目的としています。審議会でも認可されれば、現在の修士課程の専攻・コースは、新しい専攻・コースに移行することになりますのでご了承ください。

専門職学位課程(教職大学院)

◎募集人員 前期86人 後期14人

▶教育実践高度化専攻	クラス	前期	後期
学校経営コース	昼間	20人	若干人
	夜間	若干人	若干人
授業実践リーダーコース	昼間	25人	5人
	夜間	若干人	若干人
心の教育実践コース	昼間	16人	4人
	夜間	若干人	若干人
道徳教育・進路指導、生徒指導・教育相談、学級経営など			
小学校教員養成特別コース	昼間の	25人	5人

※昼間クラスは加東キャンパスで、夜間クラスは主に神戸サテライト(神戸市中央区)で開講します。

前期選抜試験

- ◎出願期間 7月16日☎~23日☎(消印有効)
- ◎試験日 8月21日☎(筆記・口述)
※筆記・口述の両方を受験する人が対象
8月22日☎(口述)
※口述のみを受験する人が対象

◎合格者の発表 9月10日☎10:00

後期選抜試験

- ◎出願期間 10月8日☎~15日☎(消印有効)
- ◎試験日 11月13日☎(筆記・口述)
- ◎合格者の発表 12月3日☎10:00
- ☎入試課 ☎0795-44-2067

◎大学院学校教育研究科説明会

大学院学校教育研究科(修士課程、専門職学位課程)の教育課程や専攻・コースの概要などについて説明します。個別相談の時間も設けます。

- [神戸市総合教育センター]
- ◎日時 6月12日☎13:00~14:40、6月26日☎、7月10日☎、9月11日☎、25日☎、10月2日☎13:30~15:20
- [キャンパス・イノベーションセンター大阪]
- ◎日時 7月3日☎、9月18日☎14:00~15:30
- [キャンパス・イノベーションセンター東京]
- ◎日時 7月3日☎、9月18日☎13:30~15:00
- [メルパルク京都]
- ◎日時 9月25日☎13:30~15:00
- [岡山コンベンションセンター]
- ◎日時 6月19日☎13:30~15:00
- [福岡朝日ビル]
- ◎日時 6月12日☎、10月2日☎13:30~15:00

☎☎入試課

☎0795-44-2067 ☎0795-44-2069
☑office-nyushi-k@hyogo-u.ac.jp

◎教職大学院公開授業及び研究会

教育実践高度化専攻(教職大学院)の公開授業、「教職大学院の学びから学校現場の実践へ」をテーマとする研究会(パネルディスカッション)、加治佐哲也学長の講演を開催します。参加無料。

- ◎日時 6月12日☎10:30~16:20(受付10:00~)
- ◎場所 神戸市総合教育センター
- ☎☎教育支援課
- ☎0795-44-2322、2356 ☎0795-44-2039
- ☑aca-kokai@hyogo-u.ac.jp

◎平成22年度 大学院オープンキャンパス (修士課程、専門職学位課程)

大学院への入学を考えている人や大学院に興味のある人などを対象に、大学院の概要を説明します。在学生による体験談の紹介、個別相談、学内施設の見学などの時間も設けます。

- ◎日時 8月4日☎13:30~16:00(受付13:00~)
- ◎場所 加東キャンパス
- ☎入試課
- ☎0795-44-2067 ☎0795-44-2069
- ☑office-nyushi-k@hyogo-u.ac.jp

◎平成22年度学校教育学部 オープンキャンパス

受験生やその保護者、高校の進路指導担当者などを対象に開催します。

- ◎日時 7月18日☎11:00~16:00(受付10:30~)
- ◎場所 加東キャンパス
- ☎入試課
- ☎0795-44-2067 ☎0795-44-2069
- ☑office-nyushi-k@hyogo-u.ac.jp

入試関連の資料は
携帯電話からも
請求できます



編 集 後 記

- 4月に新学長が就任。新体制での大学運営に期待が寄せられています。本誌の編集スタッフも異動がありました。新たな気持ちで、より充実した親しみやすい誌面づくりをめざします。今号では、「学校の適正規模」の捉え方(巻頭言)や過去最悪の発生件数となった「児童生徒の暴力行為」(教育最前線)などを紹介しました。共に考えるきっかけとなれば幸いです。(あ)
- 今号から編集に携わることとなりました。前号の読者アンケートで示唆に富んだご提案や心温まるメッセージを多数いただき、本学へ寄せられている関心の高さを感じています。みなさまと大学のつながりが一層深められる広報誌をめざしていきます。バックナンバーは本学ホームページ(<http://www.hyogo-u.ac.jp>)でご覧いただけます。(な)

◎あなたの声をお聞かせください

- 「教育子午線」では、読者の皆さまの声を生かした誌面づくりをめざしています。はがきかメールでご意見、ご感想を寄せていただいた方には、オリジナル・シャープペンシルを進呈します。
- あて先: 〒673-1494 兵庫県加東市下久米942-1 兵庫教育大学企画課広報・社会連携事務室
- ☎0795-44-2334 ☎0795-44-2009
- ☑office-renkei-r@hyogo-u.ac.jp

